

◎世界と空間を描く

—江戸時代、表現する人々—

◆杉本史子（史料編纂所近世史料部教授）



Entrance to Sagitsu-no-ura E.S.E.

◎古写真ガラス原板にみる

幕末・明治の日本

◆保谷徹

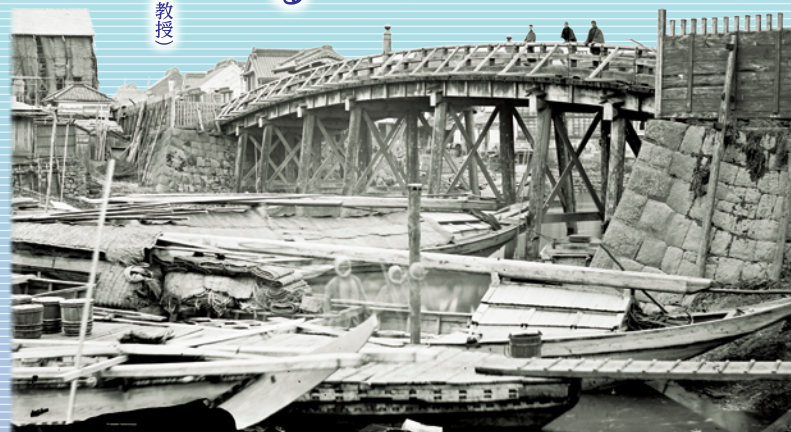
（史料編纂所附属画像史料解析センター教授）



◎長篠の戦い

—いかに描かれたか／いかに描くか—

◆金子拓（史料編纂所中世史料部准教授）



◎「倭寇図巻」研究の現在

◆須田牧子（史料編纂所中世史料部助教）



東京大学史料編纂所附属 画像史料解析センター

設立20周年記念 公開講演会

画像史料の語る日本史

2018 1月27日(土) 東京大学農学部・弥生講堂 一条ホール

13:00~17:00 (開場 12:30) ●定員300名 ●参加費無料 ●事前申込不要

主催：東京大学史料編纂所附属 画像史料解析センター

画像史料の語る日本史

2018年1月27日(土) 13:00~17:00 (開場 12:30)

史料編纂所は、古代から明治維新期までの史料の研究と史料集の編纂を明治時代以来継続している、全国に唯一の日本史に特化した研究所です。その成果は史料集として出版し、近年ではデータベースとして公開しています。史料のなかでも絵巻・屏風絵・肖像画・錦絵・摺物や古写真などの画像史料や、様々な画像情報の研究を進めるため、1997年に史料編纂所の附属施設として画像史料解析センターが設立されました。画像史料の新たな研究によってどのような歴史像が浮かび上がってきたのでしょうか。今年度、センター設立20周年を迎えたことを記念して、画像史料の楽しさ、面白さをわかりやすくお伝えする一般向け公開講演会を開催します。

どなたでもご参加いただけますので、どうぞご来場ください。

東京大学農学部・
弥生講堂 一条ホール

● 定員：300名 ● 事前申込不要



○ 東京メトロ南北線「東大前」駅下車 徒歩 1分
○ 東京メトロ千代田線「根津」駅下車 徒歩 8分

長篠の戦い — いかに描かれたか/いかに描くか —

◎金子 拓 (史料編纂所 中世史料部 准教授)

東京国立博物館所蔵長篠合戦図屏風の史料の特徴を明らかにし、現在史料保存技術室(模写室)において取り組んでいる同屏風の「彩色復元模写」について紹介します。



「倭寇図巻」研究の現在

◎須田牧子 (史料編纂所 中世史料部 助教)

「倭寇図巻」は誰がいつ何のために作ったのか? 高精細の赤外線撮影による文字の発見から新たに見えてきた「倭寇図巻」の史料の性格を多角的に追究し、絵解きを試みます。



世界と空間を描く — 江戸時代、表現する人々 —

◎杉本史子 (史料編纂所 近世史料部 教授)

史料編纂所に伝えられてきた絵図類からは、伊能忠敬をはじめ、江戸時代の人々の新たな姿がみえてきました。江戸から明治という転換期に生きた人々の、空間表現・世界表現について紹介します。



Entrance to Sagitsu-no-ura E.S.E.

古写真ガラス原板にみる幕末・明治の日本

◎保谷 徹 (史料編纂所附属画像史料解析センター 教授)

古写真研究プロジェクトは、海外にある古写真コレクションの調査にも取り組んでいます。幕末から明治初年、ガラス原板ネガに写し込まれた高精細な画像情報を、デジタルの力で読み解いてみましょう。



お問い合わせ先：東京大学史料編纂所 03-5841-5997 (代表) 113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>